

スマートシティ施策のKPI設定指針の作成（2022年4月）

- 国によるスマートシティ施策の評価枠組み・評価指標の設定、及び、地域（自治体・コンソーシアム等）によるスマートシティ施策の評価枠組み・基幹的評価指標についての検討を実施
- EBPMの方法論に基づくスマートシティの施策を評価の枠組みの構築を目指す

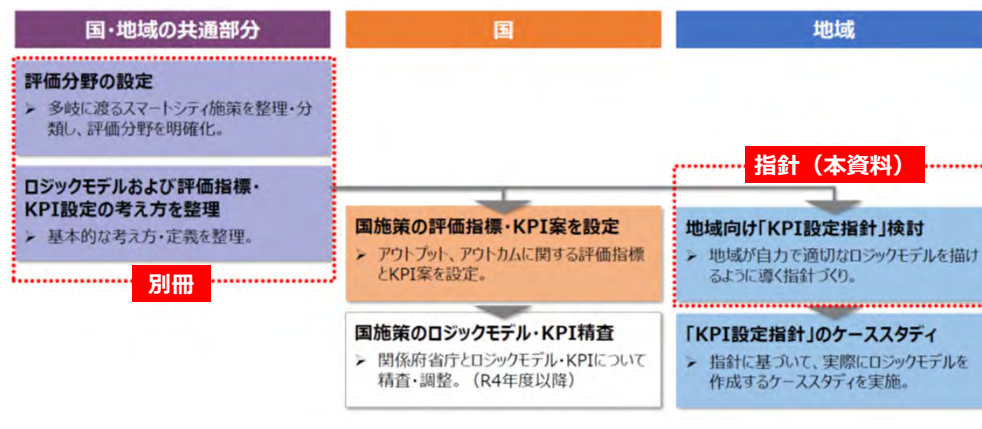
内閣府Webサイトに掲載-> https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartcity/index.html

評価指標等の検討体制

スマートシティ評価指標に関する有識者検討会 (2021年10月～2022年2月まで3回開催)

- 浅見 泰司 東京大学大学院工学系研究科 教授
 石田 哲也 東京大学大学院工学系研究科 教授
 井上 茂 東京医科大学公衆衛生学 教授
 出口 敦 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授<座長>
 村木 美貴 千葉大学大学院工学研究科 教授
 森本 章倫 早稲田大学社会環境工学科 教授

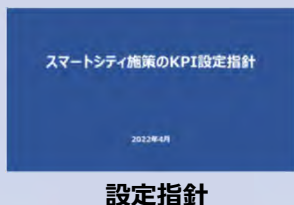
(検討事項)



検討成果の概要

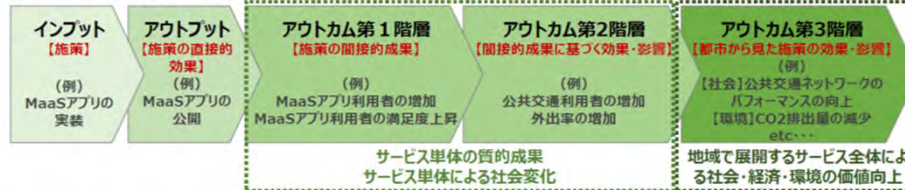
地域（コンソ等）施策担当者に向けて

- 地域（コンソ等）に向けた、ロジックモデルの描き方およびKPI設定の指針（案）を作成
- 将来的に、コンソ等が有益な評価指標を検討・設定できる指針となることを目指す

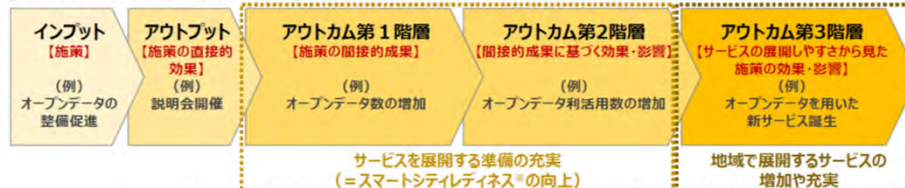


② ロジックモデルの基本形・全体像

【サービス分野のロジックモデル基本形】 ※実装前の施策（実証実験等）については、本書p21にて別途説明



【基盤分野のロジックモデル基本形】



※スマートシティレディネス (SCR) : 各種スマートシティ・サービスの立ち上げや充実化、維持がしやすい環境の整っている程度を表す指標群 15

出典：「スマートシティ施策のKPI設定指針」（内閣府）

評価指標設定指針の活用と期待される効果

● 評価指標設定指針の活用（今後の予定）

第1ステップ (R4年度～)

- スマートシティ事業・デジ田交付金事業のKPI設定の際に参考として活用
 - ✓ 指針（当初版）により、先行する取り組みでのケーススタディを実施

第2ステップ (R5年度以降)

- ケーススタディからのフィードバックにより、指針の課題を整理、指標設定・活用例を収集
 - ✓ アップデートした指針により、スマートシティ事業等での活用を拡大、ガイドブック・アーキテクチャ等への反映を通じ、さらに浸透を図る

● 指標設定の取組により期待される効果

想定される反応	当面の対応と取組	期待される効果と課題
「どの指標が使えるのか？」 「どんなデータがあるのか？」	「まずはデータに触れてみる」 (現状把握) … KPI・データ取得の効率化の手法・仕組みの検討	→住民理解（課題共有・見える化のためのコミュニケーションツール）
「難しい…」	「PDCAに慣れている人との協力」 (共同作業) … 評価・ロジックモデル（EBPM）に明るい人材の育成	→企画部門と事業部門との連携 (横断体制構築のきっかけ)
「どこからやればよいのか…」 「どんなメリットがあるのか？」	「アウトプット（進捗）+アウトカム (効果)」に注目（複眼的視点） … EBPM推進の取組や波及効果の好事例の横展開	→ゴール、ビジョンの共有 (トップ層と担当者の疎通) →様々な行政計画にも共通の視点 (都市・地域施策の全体の視点)

指標設定（KPI活用、EBPM視点）の浸透 ⇔ スマートシティの実装の拡大・相互連携の推進